

バーコード・ペンスキャナ
MS100N シリーズ
ユーザーマニュアル



取扱説明書

Version 1.2

対応モデル：MS100-NUCB00-J、MS100-NUCB00-S、MS100-NKCB00-S、MS100-NRCB00-S

目次

1. 設定コマンド	5
設定方法について	5
1.1. 設定の複製（一括設定）	6
設定のダンプ	6
一括設定バーコードの作成	6
設定を複製する	6
1.2. システム設定	7
設定バーコードの読取	7
設定値の初期化	7
バージョン表示	7
1.3. インターフェース設定	8
インターフェースの選択	8
1.4. キーボード設定	9
キーボードレイアウト変更（USB 接続時のみ）	9
Caps Lock モード	9
1.5. データ送信設定	10
送信データフォーマットについて	10
コード ID の送信	10
データ桁数の送信	10
コード ID 一覧表	11
プリアンブル（プリフィックス）とポストアンブル（サフィックス）	12
ターミネータ	13
Windows 機能キーの使用	13
文字間遅延	14
ブロック間遅延	15
1.6. ビープ設定	16
読取成功ビープの音程（トーン）	16
1.7. バーコード読取設定	17
バーコード設定初期値一覧表	17
全てのバーコードの読取	20
白黒反転バーコードの読取	20
Code39	21
Code39 の読取	21
Code39 読取フォーマット	21
Code39 スタート・ストップキャラクタの送信	21

Code39	チェックデジットの検査と送信	22
Code39	読取可能な最小桁数と最大桁数	22
Code93		23
Code93	Code93 の読取り	23
Code93	読取可能な最小桁数と最大桁数	23
Code128		24
Code128	Code128 の読取り	24
Code128	読取可能な最小桁数と最大桁数	24
GS1-128		25
GS1-128	GS1-128 の読取り	25
GS1-128	先頭 ID (IC1) の送信	25
GS1-128	FNC1 キャラクタの送信	26
GS1-128	FNC1 キャラクタの変更	26
UPC-E		27
UPC-E	UPC-E の読取り	27
UPC-E	先頭数字の送信	27
UPC-E	チェックデジットの送信	27
UPC-E	アドオンコードの読取り	28
UPC-E	アドオン間スペースの追加	28
UPC-E	アドオンコードの送信	29
UPC-E	UPC-E を UPC-A に拡張	29
UPC-A		30
UPC-A	UPC-A の読取り	30
UPC-A	先頭数字の送信	30
UPC-A	チェックデジットの送信	30
UPC-A	アドオンコードの読取り	31
UPC-A	アドオン間スペースの追加	31
UPC-A	アドオンコードの送信	32
UPC-A	UPC-A を JAN-13 に拡張	32
UPC-A	先頭 0 の JAN-13 を 13 桁で出力	32
JAN-8		33
JAN-8	JAN-8 の読取り	33
JAN-8	先頭数字の送信	33
JAN-8	チェックデジットの送信	33
JAN-8	アドオンコードの読取り	34
JAN-8	アドオン間スペースの追加	34
JAN-8	アドオンコードの送信	35
JAN-13		36
JAN-13	JAN-13 の読取り	36
JAN-13	先頭数字の送信	36
JAN-13	チェックデジットの送信	36
JAN-13	アドオンコードの読取り	37
JAN-13	アドオン間スペースの追加	37
JAN-13	アドオンコードの送信	38

ISBN の読取り	38
ISSN の読取り	38
Codabar (NW-7)	39
Codabar (NW-7) の読取り	39
Codabar (NW-7) スタート・ストップキャラクタの送信	39
Codabar (NW-7) チェックデジットの検査と送信	40
Codabar (NW-7) 読取可能な最小桁数と最大桁数	40
Codabar (NW-7) スタート・ストップキャラクタの変更	41
Interleaved 2 of 5 (ITF)	42
Interleaved 2 of 5 (ITF) の読取り	42
Interleaved 2 of 5 (ITF) チェックデジットの検査と送信	42
Interleaved 2 of 5 (ITF) 先頭または末尾削除	43
Interleaved 2 of 5 (ITF) 読取可能な最小桁数と最大桁数	43
GS1 Databar	44
GS1 Databar の読取り	44
GS1 Databar チェックデジットの送信	44
GS1 Databar AI の送信	44
GS1 Databar Limited	45
GS1 Databar Limited の読取り	45
GS1 Databar Limited チェックデジットの送信	45
GS1 Databar Limited AI の送信	45
GS1 Databar Expanded	46
GS1 Databar Expanded の読取り	46
GS1 Databar Expanded 読取可能な最小桁数と最大桁数	46
2. フル ASCII テーブル	47
制御コード	47
アルファベット (大文字)	48
アルファベット (小文字)	49
数字	50
記号	51
Windows 機能キー	52
3. テストバーコード	55

1. 設定コマンド

設定方法について

MS100N は、専用の設定バーコードを読み込ませることで設定の変更を行います。変更された設定は不揮発性メモリに保存され、MS100N の電源を切っても設定は保持されます。

MS100N の設定を変更するには、ターゲットの設定バーコードを読み込ませてください。

モニタ上に表示させたバーコードを直接読取ることはできません。必要なバーコードを印刷して使用してください。

設定バーコードの仕様については、次の例図をご参照ください



1.1. 設定の複製（一括設定）

同一の設定を持った MS100N を複製することができます。手順は次の通りです。

- ステップ 1： パソコンで「メモ帳」を実行し、文字入力ができるようにしておきます。
- ステップ 2： MS100N（主機）で「**ダンプ出力**」を読取ります。メモ帳に、現在の設定がダンプされます。
- ステップ 3： メモ帳に出力されたパラメータを「**Code39（チェックデジット無し）**」で作成します。
- ステップ 4： MS100N（複製）で「ステップ 3」のバーコードを読取り、設定を複製します。

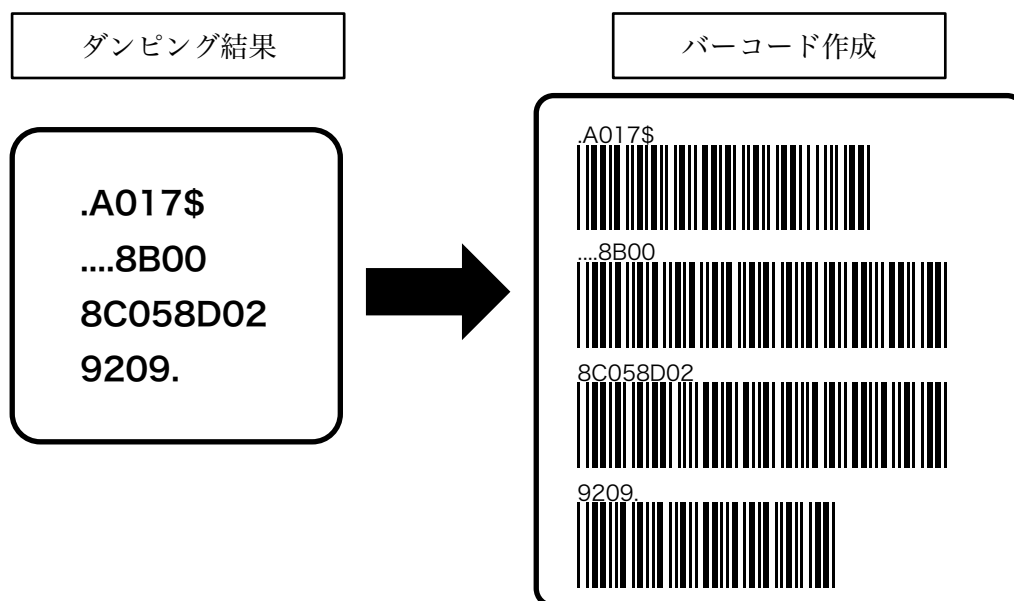
設定のダンプ

MS100N の現在の設定をテキストとしてパソコンに出力します。



一括設定バーコードの作成

ダンプされたパラメータを「Code39（チェックデジット無し）」で作成します。



設定を複製する

MS100N で一括設定バーコードを上から順番に読取ると設定の複製は完了です。

1.2. システム設定

設定バーコードの読取

設定バーコードによるパラメータ変更を無効にすることができます。この設定が「無効」の場合、設定バーコードを読取ると通常の Code39 バーコードとして処理されます。



設定値の初期化

MS100N のバーコード設定を初期化します。



バージョン表示

MS100N のバージョン情報をホストに表示します。このコマンドを使用する場合、MS100N とホストが正常に接続されていて、ホストでテキスト入力可能なアプリケーションが実行されている必要があります。



1.3. インターフェース設定

インターフェースの選択

使用しているインターフェースに応じて変更してください。

PS/2 キーボードウェッジ – キーボードウェッジケーブルで使用するインターフェースモードです。

RS232C – RS232C ケーブルで使用するインターフェースモードです。

USB HID – USB ケーブルで使用するインターフェースモードです。USB ケーブルを使用している場合、通常はこちらのインターフェースモードを使用してください。

USB 仮想 COM – USB ケーブルで使用するインターフェースモードです。USB 仮想 COM ポートをホスト PC で作成して使用します。別途、専用ドライバのインストールと COM ポートを使用するためのアプリケーションが必要です。COM ポートが必要な場合にご使用ください。



PS/2 キーボードウェッジ



RS232C



USB HID



USB 仮想 COM

1.4. キーボード設定

キーボードレイアウト変更 (USB 接続時のみ)

ホストのキーボードレイアウトに合わせて変更してください。ホストのキーボードレイアウトと MS100N のキーボードレイアウトが異なると、記号など一部の文字が正常に表示されません。



日本語キーボード



英語キーボード

Caps Lock モード

スキャナの Caps Lock の状態を変更します。大文字と小文字の出力を変更したい場合に使用します。

Caps Lock フリー — ホストの Caps Lock 状態を検知して正確なデータを出力します。

Caps Lock オフ — Caps Lock オフ状態で出力します。

Caps Lock オン — Caps Lock オン状態で出力します。



Caps Lock フリー



Caps Lock オフ



Caps Lock オン

1.5. データ送信設定

送信データフォーマットについて

MS100N で読取ったバーコードデータは次のフォーマットでホストに送信されます。ターミネータは標準で「Enter」が設定されています。

{プリアンブル} {コード ID} {桁数} [バーコードデータ] {ポストアンブル} [ターミネータ]

- { } — 初期設定では出力されません。出力するには設定が必要です。
- [] — 初期設定で出力されます。ターミネータは「なし」にすることができます。

コード ID の送信

MS100N は、サポートしているバーコードシンボルに対して、あらかじめ決められたコード ID を持っています。バーコードの種類を調べたいときなどに使用してください。



送信しない



送信する

データ桁数の送信

MS100N は、読取ったバーコードデータの桁数を追加して送信することができます。



送信しない



送信する

コード ID 一覧表

バーコードシンボル	コード ID	バーコードシンボル	コード ID
EAN 128	T	MSI	O
Code 128	K	Code 32	B
EAN/JAN-8	S	Codabar (NW-7)	N
EAN/JAN-13	F	UK Plessey	P
UPC-E	E	Matrix 2 of 5	Y
UPC-A	A	Code 39 フル ASCII	D
Code 93	L	Code 39 標準 ASCII	M
Code 11	J	Interleaved 2 of 5 (ITF)	I
Telepen	U	GS1 Databar	G
IATA 2 of 5	R	GS1 Databar Limited	C
Industrial 2 of 5	V	GS1 Databar Expanded	Q
China Post Code	H		

プリアンブル（プリフィックス）とポストアンブル（サフィックス）

プリアンブルを設定するとバーコードデータの先頭に、ポストアンブルを設定するとバーコードデータの最後に、任意の制御文字・英数字・記号を追加することができます。追加することの出来る文字は最大で各 16 文字です。



プリアンブル/ポストアンブル クリア



プリアンブル



ポストアンブル

プリアンブルに「##」、ポストアンブルに「\$\$」と設定する場合は、次の手順で行います。

- ステップ 1: 「**プリアンブル/ポストアンブル クリア**」を読取ります。
- ステップ 2: 「**プリアンブル**」を読取ります。
- ステップ 3: [フル ASCII テーブル](#) (47~54 ページ) から「#」を 2 回読取ります。
- ステップ 4: 「**プリアンブル**」を読取ります。
- ステップ 5: 「**ポストアンブル**」を読取ります。
- ステップ 6: [フル ASCII テーブル](#) (47~54 ページ) から「\$」を 2 回読取ります。
- ステップ 7: 「**ポストアンブル**」を読取ります。

ターミネータ

ターミネータは、スキャナが出力するデータの最後に付加されるコマンドです。



Windows 機能キーの使用

この設定を「無効」に変更すると、フル ASCII テーブル内の Windows 機能キー（52 ページ）が使用できなくなり、通常の Code39 バーコードとして処理されます。



文字間遅延

文字間遅延は、1つの文字を送った後に次の文字を送るまでに待機する時間です。MS100Nの送ったデータが正しくない場合や途中の文字が欠けてしまう場合は、文字間遅延を長めに設定すると解決することがあります。



ブロック間遅延

ブロック間遅延は、1つのバーコードデータを送った後に次のバーコードデータを送るまでに待機する時間です。ホストの処理速度がMS100Nのスキャン速度より遅い場合は、ブロック間遅延を長めに設定するとデータの正確性を確保することができます。



1.6. ビープ設定

読取成功ビープの音程（トーン）

ビープ音の音程を変更することができます。音のボリュームを変更することはできません。



1.7. バーコード読取設定

バーコード設定初期値一覧表

バーコードシンボル	標準パラメータ	掲載ページ
Code39		
読取り	有効	21
フォーマット	フル ASCII フォーマット	21
スタート/ストップキャラクタ送信	送信しない	21
チェックデジット検査/送信	検査しない/送信しない	22
読取可能 最小桁数	1	22
読取可能 最大桁数	48	22
Code93		
読取り	有効	23
読取可能 最小桁数	6	23
読取可能 最大桁数	48	23
Code128		
読取り	有効	24
読取可能 最小桁数	5	24
読取可能 最大桁数	48	24
GS1-128		
読取り	有効	25
先頭 ID (I C1) 送信	送信しない	25
FNC1 キャラクタ送信	送信しない	26
UPC-E		
読取り	有効	27
先頭数字送信	送信する	27
チェックデジット送信	送信する	27
2 桁アドオンコード読取り	無効	28
5 桁アドオンコード読取り	無効	28
アドオン間スペース追加	追加しない	28
アドオンコード送信	あれば送信	29
UPC-E を UPC-A に拡張	拡張しない	29

バーコードシンボル	標準パラメータ	掲載ページ
UPC-A		
読取り	有効	30
先頭数字送信	送信する	30
チェックデジット送信	送信する	30
2桁アドオンコード読取り	無効	31
5桁アドオンコード読取り	無効	31
アドオン間スペース追加	追加しない	31
アドオンコード送信	あれば送信	32
UPC-AをJAN-13に拡張	拡張しない	32
JAN-8		
読取り	有効	33
先頭数字送信	送信する	33
チェックデジット送信	送信する	33
2桁アドオンコード読取り	無効	34
5桁アドオンコード読取り	無効	34
アドオン間スペース追加	追加しない	34
アドオンコード送信	あれば送信	35
JAN-13		
読取り	有効	36
先頭数字送信	送信する	36
チェックデジット送信	送信する	36
2桁アドオンコード読取り	無効	37
5桁アドオンコード読取り	無効	37
アドオン間スペース追加	追加しない	37
アドオンコード送信	あれば送信	38
ISBN		
読取り	無効	38
ISSN		
読取り	無効	38
Codabar (NW-7)		
読取り	有効	39
スタート/ストップキャラクタ送信	送信する	39
スタート/ストップキャラクタ	ABCD/ABCD	41
チェックデジット検査/送信	検査しない/送信しない	40
読取可能 最小桁数	6	40
読取可能 最大桁	48	40

バーコードシンボル	標準パラメータ	掲載ページ
Interleaved 2 of 5 (ITF)		
読取り	有効	42
チェックデジット検査/送信	検査しない/送信しない	42
先頭/末尾削除	削除しない/削除しない	43
読取可能 最小桁数	6	43
読取可能 最大桁数	48	43
GS1 Databar		
読取り	無効	44
チェックデジット送信	送信しない	44
AI 送信	送信しない	44
GS1 Databar Limited		
読取り	無効	45
チェックデジット送信	送信しない	45
AI 送信	送信しない	45
GS1 Databar Expanded		
読取り	無効	46

全てのバーコードの読取り

全てのバーコードの読取を設定することができます。



白黒反転バーコードの読取り

白と黒が反転しているバーコードの読取りを設定することができます。

無効 — 標準のバーコードのみ読取ることができます。

有効 — 標準のバーコードと白黒反転バーコードの両方を読取ることができます。



Code39

Code39 の読取り

Code39 の読取りを設定することができます。



Code39 読取りフォーマット

Code39 の読取りフォーマットを設定することができます。フル ASCII フォーマットは、2つの文字の組み合わせで ASCII キャラクタを表現する特別なフォーマットです。



Code39 スタート・ストップキャラクタの送信

Code39 のスタート・ストップキャラクタの送信を設定することができます。Code39 のスタート・ストップキャラクタはデータ前後のアスタリスク (*) です。



Code39 チェックデジットの検査と送信

Code39 のチェックデジットの検査と送信を設定することができます。「**検査する**」設定に変更した場合、チェックデジットの無いバーコードを読取ることはできません。



Code39 読取可能な最小桁数と最大桁数

Code39 の読取可能な最少桁数と最大桁数を設定することができます。標準では、最少桁数が **1** 桁、最大桁数が **48** 桁です。



最少桁数と最大桁数を変更する場合は次の手順で行います。設定したい桁数が 1 桁の場合は、「0」「4」のように読取ってください。

ステップ 1: 「**最小桁数**」を読取ります。

ステップ 2: フル ASCII テーブルの**数字バーコード** (50 ページ) から 2 つ読取ります。

ステップ 3: 「**最小桁数**」を読取ります。

Code93

Code93 の読取り

Code93 の読取りを設定することができます。



Code93 読取可能な最小桁数と最大桁数

Code93 の読取可能な最小桁数と最大桁数を設定することができます。標準では、最小桁数が6桁、最大桁数が48桁です。



Code128

Code128 の読取り

Code128 の読取りを設定することができます。



無効



有効

Code128 読取可能な最小桁数と最大桁数

Code128 の読取可能な最少桁数と最大桁数を設定することができます。標準では、最少桁数が 5 桁、最大桁数が 48 桁です。



最小桁数



最大桁数

最少桁数と最大桁数を変更する場合は次の手順で行います。設定したい桁数が 1 桁の場合は、「0」「4」のように読取ってください。

- ステップ 1: 「**最小桁数**」を読取ります。
- ステップ 2: フル ASCII テーブルの [数字バーコード](#) (50 ページ) から 2 つ読取ります。
- ステップ 3: 「**最小桁数**」を読取ります。

GS1-128

GS1-128 の読取り

GS1-128 の読取りを設定することができます。



GS1-128 先頭 ID (JCI) の送信

GS1-128 の先頭 ID を設定することができます。バーコードデータのみ必要な場合は、「送信しない」設定に変更してください。



GS1-128 FNC1 キャラクタの送信

GS1-128 の FNC1 の位置に特別な文字を送信することができます。標準では GS コード（グループセパレータ）が送信されます。これは HID 接続時と SPP 接続時で送信コードが異なるため注意が必要です。

注 HID 接続時は「Alt+0+2+9」が送信されます。

注 SPP 接続時は GS の制御コードである「0x29」が送信されます。



GS1-128 FNC1 キャラクタの変更

FNC1 キャラクタを任意のキャラクタに変更することができます。この設定を反映させるには、[FNC1 キャラクタの送信](#)が「送信する」に設定されている必要があります。



FNC1 キャラクタを「#」に変更する場合は次の手順で行います。

- ステップ 1: 「FNC1 キャラクタ変更」を読取ります。
- ステップ 2: [フル ASCII テーブル](#)（47～54 ページ）から「#」を読取ります。
- ステップ 3: 「FNC1 キャラクタ変更」を読取ります。

UPC-E

UPC-E の読取り

UPC-E の読取りを設定することができます。



UPC-E 先頭数字の送信

UPC-E の先頭数字の送信を設定することができます。



UPC-E チェックデジットの送信

UPC-E のチェックデジットの送信を設定することができます。



UPC-E アドオンコードの読取り

2桁または5桁のアドオンコードの読取りを設定することができます。



UPC-E アドオン間スペースの追加

UPC-E とそのアドオンコードの間にスペースを追加することができます。



UPC-E アドオンコードの送信

アドオンコードの送信を設定することができます。これらの設定は、「UPC-E アドオンコードの読取り」で2桁および5桁のアドオンコードの読取りが両方とも「無効」に設定されている場合は使用されません。



アドオンコードがあれば送信



アドオンコードが必要

UPC-E を UPC-A に拡張

UPC-E を UPC-A に変換して出力することができます。UPC-A を JAN13 に拡張の設定が「拡張する」に設定されている場合は JAN13 として出力します。



拡張しない



拡張する

UPC-A

UPC-A の読取り

UPC-A の読取りを設定することができます。



UPC-A 先頭数字の送信

UPC-A の先頭数字の送信を設定することができます。



UPC-A チェックデジットの送信

UPC-A のチェックデジットの送信を設定することができます。



UPC-A アドオンコードの読取り

2桁または5桁のアドオンコードの読取りを設定することができます。



UPC-A アドオン間スペースの追加

UPC-A とそのアドオンコードの間にスペースを追加することができます。



UPC-A アドオンコードの送信

アドオンコードの送信を設定することができます。これらの設定は、「[UPC-A アドオンコードの読取り](#)」で2桁および5桁のアドオンコードの読取りが両方とも「無効」に設定されている場合は使用されません。



アドオンコードがあれば送信



アドオンコードが必要

UPC-A を JAN-13 に拡張

先頭0のJAN-13を13桁で出力

UPC-A を JAN-13 に変換して出力することができます。先頭が0のJAN-13を読み込んだときに先頭の0が削除されて12桁で出力されてしまう場合も、この設定を変更してください。



拡張しない



拡張する

JAN-8

JAN-8 の読取り

JAN-8 の読取りを設定することができます。



JAN-8 先頭数字の送信

JAN-8 の先頭数字の送信を設定することができます。



JAN-8 チェックデジットの送信

JAN-8 のチェックデジットの送信を設定することができます。



JAN-8 アドオンコードの読取り

2桁または5桁のアドオンコードの読取りを設定することができます。



JAN-8 アドオン間スペースの追加

JAN-8 とそのアドオンコードの間にスペースを追加することができます。



JAN-8 アドオンコードの送信

アドオンコードの送信を設定することができます。これらの設定は、「[JAN-8 アドオンコードの読取り](#)」で2桁および5桁のアドオンコードの読取りが両方とも「無効」に設定されている場合は使用されません。

.H061\$



アドオンコードがあれば送信

.H062\$



アドオンコードが必要

JAN-13

JAN-13 の読取り

JAN-13 の読取りを設定することができます。



JAN-13 先頭数字の送信

JAN-13 の先頭数字の送信を設定することができます。



JAN-13 チェックデジットの送信

JAN-13 のチェックデジットの送信を設定することができます。



JAN-13 アドオンコードの読取り

2桁または5桁のアドオンコードの読取りを設定することができます。

.H028\$



2桁アドオンコード無効

.H027\$



2桁アドオンコード有効

.H026\$



5桁アドオンコード無効

.H025\$



5桁アドオンコード有効

JAN-13 アドオン間スペースの追加

JAN-13 とそのアドオンコードの間にスペースを追加することができます。

.H041\$



追加する

.H042\$



追加しない

JAN-13 アドオンコードの送信

アドオンコードの送信を設定することができます。これらの設定は、「[JAN-13 アドオンコードの読取り](#)」で2桁および5桁のアドオンコードの読取りが両方とも「無効」に設定されている場合は使用されません。



ISBN の読取り

ISBN の読取りを設定することができます。この設定を「有効」に変更すると、978 から始まる JAN-13 を 10 桁の ISBN コードとして出力することができます。



ISSN の読取り

ISSN の読取りを設定することができます。この設定を「有効」に変更すると、977 から始まる JAN-13 を 8 桁の ISSN コードとして出力することができます。



Codabar (NW-7)

Codabar (NW-7) の読取り

Codabar (NW-7) の読取りを設定することができます。



Codabar (NW-7) スタート・ストップキャラクタの送信

Codabar (NW-7) のスタート・ストップキャラクタの送信を設定することができます。



Codabar (NW-7) チェックデジットの検査と送信

Codabar (NW-7) のチェックデジットの検査と送信を設定することができます。「**検査する**」設定に変更した場合、チェックデジットの無いバーコードを読取ることはできません。



検査しない



検査し、送信する



検査し、送信しない

Codabar (NW-7) 読取可能な最小桁数と最大桁数

Codabar (NW-7) の読取可能な最少桁数と最大桁数を設定することができます。標準では、最少桁数が6桁、最大桁数が48桁です。



最小桁数



最大桁数

最少桁数と最大桁数を変更する場合は次の手順で行います。設定したい桁数が1桁の場合は、「0」「8」のように読取ってください。

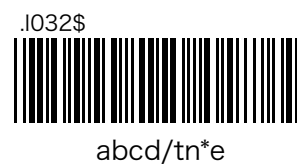
ステップ1: 「**最小桁数**」を読取ります。

ステップ2: フル ASCII テーブルの**数字バーコード** (50 ページ) から2つ読取ります。

ステップ3: 「**最小桁数**」を読取ります。

Codabar (NW-7) スタート・ストップキャラクタの変更

Codabar (NW-7) のスタート・ストップキャラクタの出力文字を変更することができます。設定値は、「スタートキャラクタ/ストップキャラクタ」で表記されています。



Interleaved 2 of 5 (ITF)

Interleaved 2 of 5 (ITF) の読取り

Interleaved 2 of 5 (ITF) の読取りを設定することができます。



Interleaved 2 of 5 (ITF) チェックデジットの検査と送信

Interleaved 2 of 5 (ITF) のチェックデジットの検査と送信を設定することができます。「検査する」設定に変更した場合、チェックデジットの無いバーコードを読取ることはできません。



Interleaved 2 of 5 (ITF) 先頭または末尾削除

Interleaved 2 of 5 (ITF) の先頭または末尾の数字を削除して出力することができます。



先頭削除



末尾削除



削除しない

Interleaved 2 of 5 (ITF) 読取可能な最小桁数と最大桁数

Interleaved 2 of 5 (ITF) の読取可能な最少桁数と最大桁数を設定することができます。標準では、最少桁数が 6 桁、最大桁数が 48 桁です。



最小桁数



最大桁数

最少桁数と最大桁数を変更する場合は次の手順で行います。設定したい桁数が 1 桁の場合は、「0」「8」のように読取ってください。

- ステップ 1: 「**最小桁数**」を読取ります。
- ステップ 2: フル ASCII テーブルの**数字バーコード** (50 ページ) から 2 つ読取ります。
- ステップ 3: 「**最小桁数**」を読取ります。

GS1 Databar

GS1 Databar の読取り

GS1 Databar の読取りを設定することができます。



GS1 Databar チェックデジットの送信

GS1 Databar のチェックデジットの送信を設定することができます。



GS1 Databar AI の送信

GS1 Databar の AI の送信を設定することができます。



GS1 Databar Limited

GS1 Databar Limited の読取り

GS1 Databar Limited の読取りを設定することができます。



GS1 Databar Limited チェックデジットの送信

GS1 Databar Limited のチェックデジットの送信を設定することができます。



GS1 Databar Limited AI の送信

GS1 Databar Limited の AI の送信を設定することができます。



GS1 Databar Expanded

GS1 Databar Expanded の読取り

GS1 Databar Expanded の読取りを設定することができます。



GS1 Databar Expanded 読取可能な最小桁数と最大桁数

GS1 Databar Expanded の読取可能な最少桁数と最大桁数を設定することができます。



最少桁数と最大桁数を変更する場合は次の手順で行います。設定したい桁数が1桁の場合は、「0」「8」のように読取ってください。

- ステップ1: 「**最小桁数**」を読取ります。
- ステップ2: フル ASCII テーブルの[数字バーコード](#) (50 ページ) から2つ読取ります。
- ステップ3: 「**最小桁数**」を読取ります。

2. フル ASCII テーブル

制御コード

%U 	NUL	\$K 	VT	\$V 	SYN
\$A 	SOH	\$L 	FF	\$W 	ETB
\$B 	STX	\$M 	CR	\$X 	CAN
\$C 	ETX	\$N 	SO	\$Y 	EM
\$D 	EOT	\$O 	SI	\$Z 	SUB
\$E 	ENQ	\$P 	DLE	%A 	ESC
\$F 	ACK	\$Q 	DC1	%B 	FS
\$G 	BEL	\$R 	DC2	%C 	GS
\$H 	BS	\$S 	DC3	%D 	RS
\$I 	HT	\$T 	DC4	%E 	ES
\$J 	LF	\$U 	NAK	%T 	DEL

アルファベット (大文字)



A



M



Y



B



N



Z



C



O



D



P



E



Q



F



R



G



S



H



T



I



U



J



V



K



W



L



X

アルファベット (小文字)



a



m



y



b



n



z



c



o



d



p



e



q



f



r



g



s



h



t



i



u



j



v



k



w



l



x

数字



1



2



3



4



5



6



7



8



9


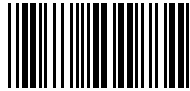
























0

記号

	空白		,		\
	!		-	]
	“		.		^
	#		/		_
	\$		:		`
	%		;		{
	&		<		
	‘		=		}
	(	>		~
)		?		
	*		@		
	+		[

Windows 機能キー

\$TA		F1	\$TM		Home
\$TB		F2	\$TN		End
\$TC		F3	\$TO		→
\$TD		F4	\$TP		←
\$TE		F5	\$TQ		↑
\$TF		F6	\$TR		↓
\$TG		F7	\$TS		Page Up
\$TH		F8	\$TT		Page Down
\$TI		F9	\$TU		Tab
\$TJ		F10	\$TV		Back Tab
\$TK		F11	\$TW		Esc
\$TL		F12	\$TX		Enter

\$TY



Back Space

\$T+K



Win (左) Make

\$TZ



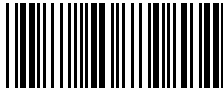
Insert

\$T+L



Win (左) Break

\$T%K



Delete

\$T+E



Alt (右) Make

\$T+D



Enter (テンキーパッド)

\$T+F



Alt (右) Break

\$T+O



アプリケーションキー

\$T+I



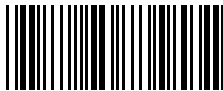
Shift (右) Make

\$T+J



Shift (右) Break

\$T%L



Alt (左) Make

\$T+G



Ctrl (右) Make

\$T%M



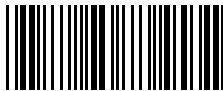
Alt (左) Break

\$T+H



Ctrl (右) Break

\$T%N



Shift (左) Make

\$T+M



Win (右) Make

\$T%O



Shift (左) Break

\$T+N



Win (右) Break

\$T%W



Ctrl (左) Make

\$T+A



Ctrl (左) Break

注 Make と Break は、Ctrl キーを押しながら S キーを押すようなコンビネーション操作に使用します。Ctrl (左) Make を読取った後に S を読取ると Ctrl(左)+S となります。この動作は対応



した Break (この場合は Ctrl (左) Break) を読取るまで継続されます。

3. テストバーコード

Code 39



UNITECHE

Code 128



Unitech128

GS1-128



(01)1234567890128(17)131101(10)AB

UPC-A



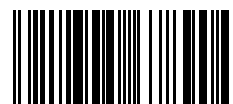
047669137166

UPC-E



01234572

JAN-13



4912345678904

JAN-8



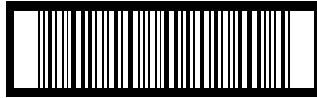
49123456

Codabar (NW-7)



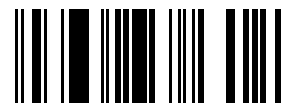
22357000599877

Interleaved 2 of 5 (ITF)



12345678901231

GS1 Databar



(01)20012345678909

GS1 Databar Limited



(01)13579246801350